

妻

が、他人の

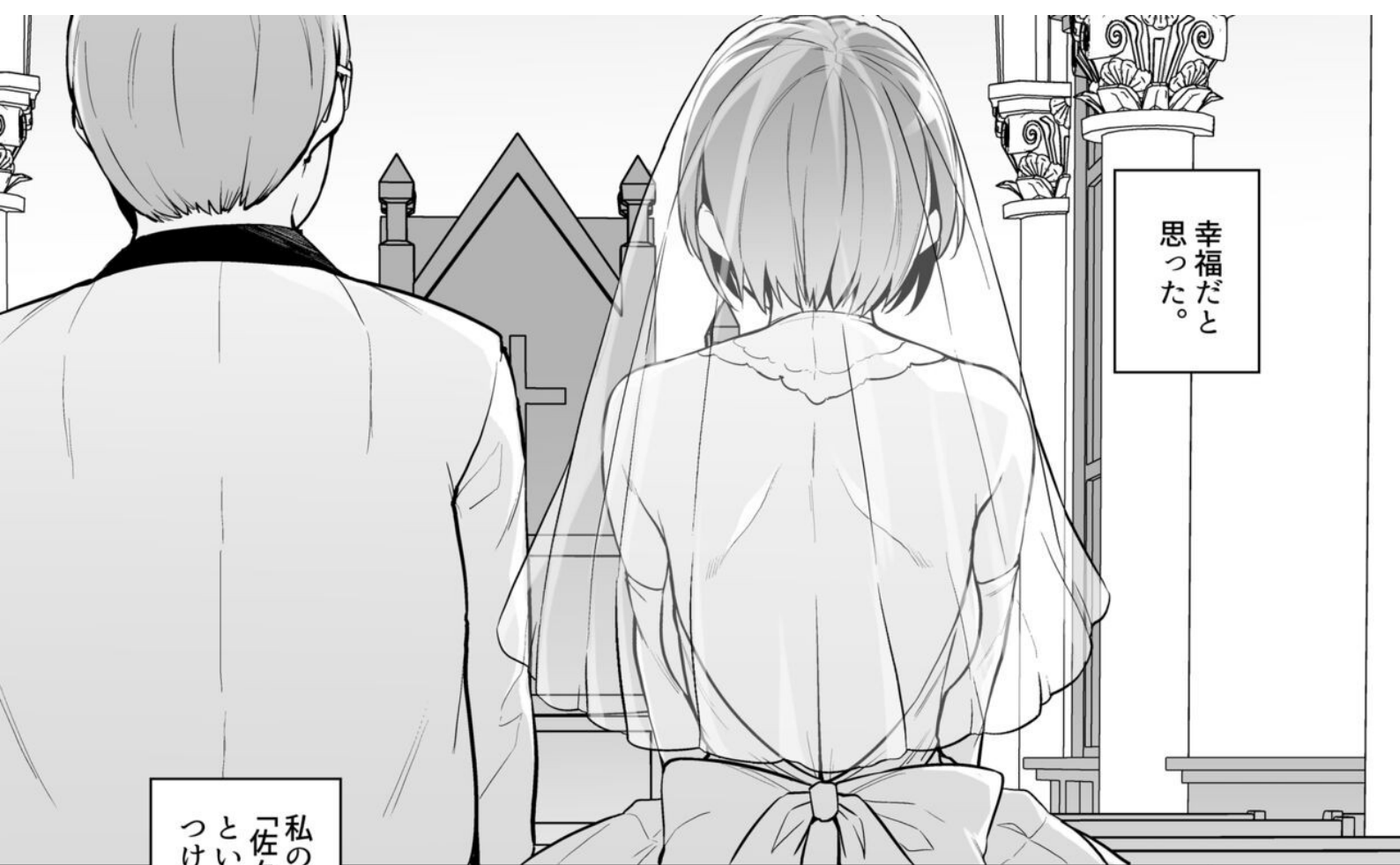
雌

になるまで。

裏

みやるびっち

R18
成人指定
Adult Contents



私の幸福には
「佐々木美咲」
というラベルが
つけられて――

幸福だと思っただ。



隣のこの人と
ずっと一緒に
人生を送るのだと
信じていた

愛し、愛される……
二人の気持ちに少しの
ズレもないはずだった

そう、思っ
ていたのに――



それなのに
なんで私は今……

夫と違う
男性とセックス
しようとして
いるのだろう――



夫の性癖が
「寝取らせ」だと
知ったのは――

妊活を始めて
しばらく経って
からだだった

でも……
それだけでは
夫は満足に勃起
できなくなり……

そして、ついに
夫からの提案――



始めは、行為の前に
「寝取らせもの」の
アダルト動画を
見たり――



私の過去の
体験談を話して、
勃起させるのが
習慣になっていた
……



お隣さんと……
美咲がもし、
セックスしたら――

隣に住む男性
加治木さん……

色黒で筋肉質、
ふくよかな夫とは
あらゆる意味で
正反対なタイプ

加治木さんは
私たち夫婦からの
「寝取らせプレイ」
の申し出を承諾した

じゃあ私は——
私は、どうして
夫のこの提案を、
承諾したんだろう？

ラブホテルに
加治木さんと一緒に
向かう道すがら——
自問自答する……

夫を愛しているから？
夫のためだったら……
そういうことを
してあげてもいいと
思っているから……？



恥ずかしさに
顔が熱くなるが
従うしかない。



ラブホテルに着き、
シャワーを浴びる
間もなく――

服を脱ぐことを
命じられる……。

ゼッ……



彼に、このプレイへの
協力をお願いしたのは
私たちが夫婦の方
なのだから……。



っ…
キスは…



っ…
今さら、貞淑ぶって
なんになるのよ…



夫の為に、
我慢するって
決めたじゃない



別に—



別に— 夫が今まで
唯一セックスした相手
だったわけでもない…

夫と知り合う前
高校時代と大学時代に
一人ずつ…恋人が…



念書も交わした
上で繰り返した
なりますが……

これは「合意」の上の
性交で、不貞行為
ではない……
そうですね？
佐々木美咲さん

あなたたち夫婦の
「寝取らせ」に、
隣人である俺が
協力している――

そのことを、はっきり
動画に証拠として
残させてもらいます。

どうして
こんなことをするのか
最初、俺には疑問
だったんですが――

美咲さんを見て
その理由が、
よくわかりましたよ





無理やりに
キスされても
受け入れる――

スカートを
たくし上げると
言われたら従う

パンッ

あゝ

あゝ

パンッ



でも、あなたの夫も
真正のマンですね

俺からしたら、
寝取らせなんて
冗談じゃない

俺なら、自分の
ものを手放したり
しない――



言い訳できないほど
あなたは奉仕する
メスなんですよ
美咲さん――

だから、他の男に
抱かれて来いなんて
夫の命令にも
従つてしまう……

ズッ

ズッ

ズッ

ズッ

録音してますよ
どっちが気持ち
いいんですか？
美咲さん

俺とのセックスと
美咲さんの夫との
セックス——
比べるまでもない
ですよ？

ぐちゃっ

ぐちゃっ

っ……！

言いたく
ないっ……！

それ、答え
言ってるのと
同じですけどね

ぐちゃっ

ズッ

ズッ



でも、そこには
愛なんてない……
彼にとって、
これはきつとただの
スポーツなんだわ



愛情を込めた
夫婦のセックスで
感じるのとは違う、
ただの身体反応

ただの反応
だからっ……！

ゴム、抜かない
ままで回を縛って
おきました。

ばかばかしい。
変態。
おかしいわよ。

それを膣に入れた
ままで家に帰って
ください。

こんな……
こんなことして
なんになるの……？

抜いたら
駄目ですよ
命令です
から……

キゅっ

こんなの、
夫が見たら
どう思うか――

なのになんで私――
それに従って
いるの……？

ふふふ

ドッ……

ゆえっ

フリッ
フリッ





疲労感と
罪悪感が
混ざって

どつと
襲ってきて
座り込む

夫を待たせて
いるのに……

急に、身体が
鉛になった
みたいに……

ギゅ……

——あなたが
どうしようもない

変態マゾ女
だからですよ



……バカ女

あんな男に
いいように
言われて……

ドクン……

ドクン……

加治木さんに
言われた通り――

アソコに
コンドームを
入れたまま……

これから、夫に
これを見せると
思うと……

きゅん……

恥ずかしさで
顔から火が
出そうになる

あの人
傷つかない
かな……

……ん、
待て待て

夫の性癖に
付き合っ
てあげたのに

私とその心配
するのは
違うの？

……考えても
仕方がないか



ど、ど、ど、ど
うだった……!?

み、美咲っ……
おかえりっ……



んーん、
大丈夫……

ホッ……

夫の表情に
ほっとする……



ご、ごめん
やっぱり
嫌だった……?



じわり、と
私の身体の奥から
熱があふれ出す

夫の視線——
私に欲情した
オスの視線……

すごく……
ドキドキする……

心臓の鼓動が
早まっていく

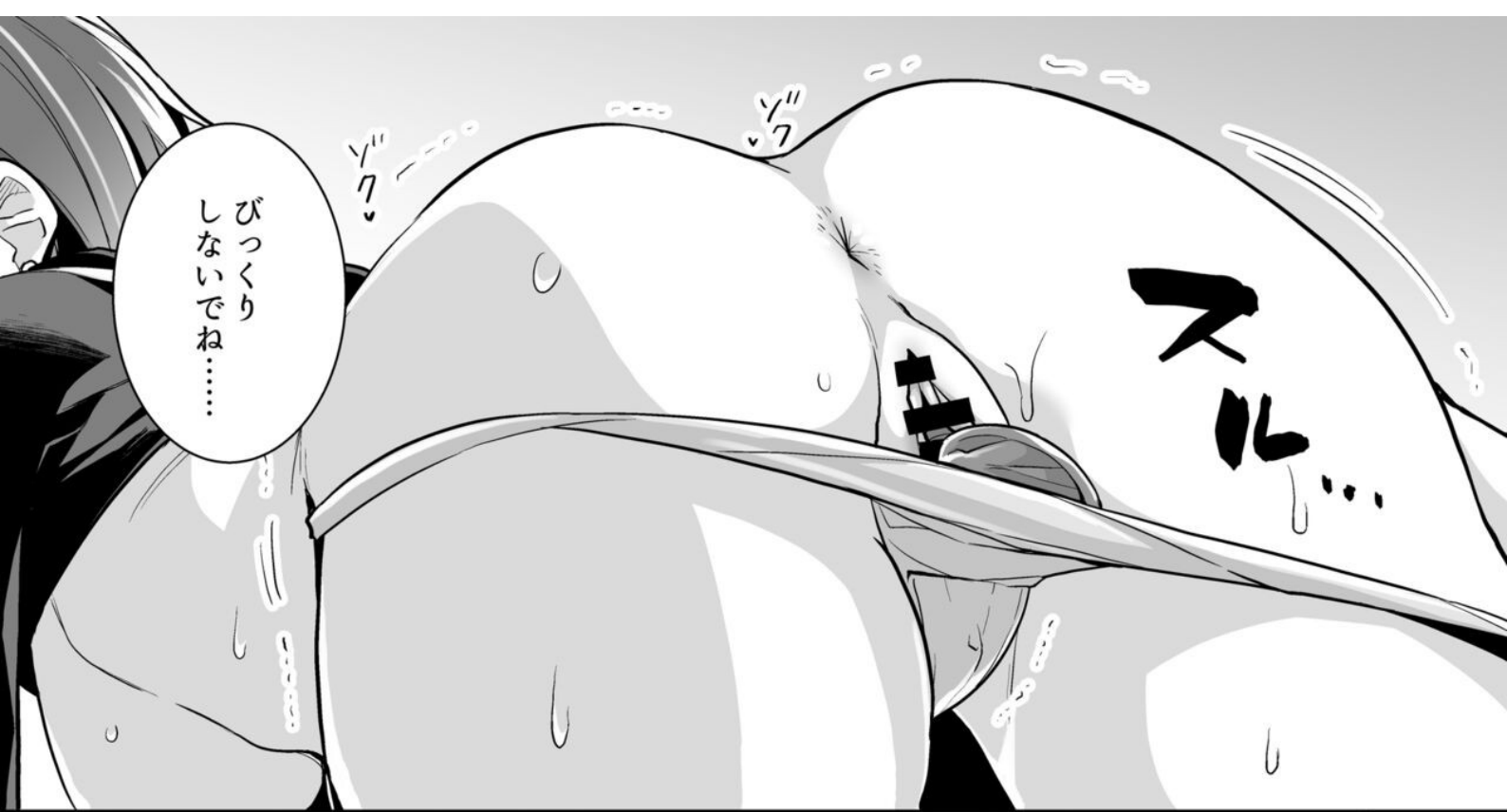
これが……
背徳感というもの
なんだろうか？

別の男の人に
抱かれてきた
後なのに——

夫も私も、
ひどく興奮
している

それとも、
別の男の人に
抱かれてきた後
だからだろうか

自分のアソコが
うずきだすのを
感じる……



びっくり
しないでね……

ズル……



これを見せたら
夫の興奮は
どうなって
しまうんだろう

私の心臓の鼓動は
破裂しそうな
ぐらい速くなる



加治木さんが……
「おみやげ」
だって……

ズ……

み……美咲
それって……

加治木さんが……
射精したコンドーム

命令されて——
そのまま……
アソコに入れて
帰ってきたの……

あなたに、
見せるために——



足を開き、
夫に見せる。

そこには、
加治木さんの残した
コンドームがある。

他の男性に、
たった今まで
抱かれてきた
その証明が――



夫の表情は、
明らかにこれまで
とは違っている



み……
美咲……
それ……



彼の性癖である
「寝取らせ」から
来る興奮……

どろりとした欲望、
ねばつくような
視線が私に
向けられる――



言えない……



美咲っ……
ど、どっちが……
気持ち良かった……？



そ……
そんなの……



夫の反応を見ながら
言葉を紡いでいく

私がどんなふうに、
隣人の加治木さんと、
セックスしたのか……
何をされたのか――

シャワーも浴びずに
始めたこと……
荒々しいキス……
それを私の体が
受け入れたこと……

それを聞くたびに、
彼の体はびくりと震え
視線が一層ねばつき、
息が荒くなる……

夫の中に、こんなにも
ねばつく湿った欲望が
隠れていたなんて……

ど、どうだったの？
僕と彼を比べて――

く……
比べられない……
でも……

私は、夫の望んでいる
答えを口にする……

お隣さん、すごく……
上手だったわ……

み、
美咲っ……！

いつもの、暖かく、
柔らかな……やさしい
愛情の確認のための
セックスとは違う……

美咲っ

キッ

ばっ

まるで、軟体動物の
捕食行動のような……
絡みつくような性交

いやらしく、ねばつき、
湿度のあるその欲望に、
私の身体の中で
一気に体温が上がる

自分が激しく
欲情されるとは、
こんなにも、
興奮することなのか

こんな風に、夫に
求められたことは
今までなかった――

はっ

ドキ

はっ

はっ

ドキ

ドキ



柔らかく、湿って
まとわりつく……

私の呼吸も
荒くなり、情欲に
身体が熱くなる



黒くねばつく
夫の欲望が、
私の身体に
侵入する――

ああ……
あなた……

ねえ……
あなた……

こんなにあなたが
興奮してくれるって
いつ以来かな……

ねえ……あなたって
本当に「そう」なの？
こういうことでしか
興奮できないの……？

本当なら——

妻を隣人に抱かれて、
悔しさに震えている
はずなのに…

美咲…

そんなに
興奮した顔で、
私を抱くの？

ねえ、どうして
いつもより

ずっとずっと
私を愛して
くれるの…？

あなた…
あなたは、
また、私に

また、他の男の人に、
抱かれて欲しいって
思ってるの……？

あゝあゝ

はっ

はっ

はっ

ズッ

ズッ

はっ

ふうっ……
うんっ……♡

夫の粘つく欲望が
私の身体の奥深くに
放たれる……

どろろ……

翌日——
夫は、「寝取らせ」を
継続したいと
言ってきた……

私は、それを
受け入れた

心の奥から
沸き上がる
どろりとした
欲望を感じながら——



加治木さんの
出した条件は
「妻」として
振る舞うこと

こうして——
昼間は隣人に抱かれ
夜は夫に抱かれる
生活が始まった



他所行きの
服だな

ボソッ...



もっと露出の多い
服の方が好きだ
……今度、
買っておく

似合わない
わよ……



……もっと
カジュアルな服の
方が好きなの？



ここでも、
普段の服を
着てくれ

……わかったわ

昼間、私は
加治木さんの
家に行く……





夜には、夫との
温かく湿った泥の
ようなセックスに
耽溺する――



本当に、この人は、他人を
支配することではか――
関係を作れないの
かもしれない……

昼も夜も
セックス漬けの
日々の繰り返しで
私たち夫婦の感覚は
どんどん狂っていった

昼間には、
冷たく乾いた
鉄のような隣人に
抱かれ……

夫との子供が
できるまで……
それまでの
期間限定

それが終われば
また、夫と二人……
穏やかで優しい
日々に戻る
ことができる……

これが
終われば……

だけど……
夫と、私は……

次第にこの状況に慣れ
さらなる刺激を
欲するようになって
いった……

加治木さんとの
情事は、次第に
激しさを増し

夜には、夫にそれを
赤裸々に語る

夫の嫉妬心を掻き立て
さらに激しく抱かれる
ために……

そのことを
加治木さんに
申し訳なく思うこと
すらあった……
彼の気持ちは……





……さんたちは
佐々木さん

み、美咲……？

あの、さっきの
メツセージは、
しゅ……主人が、
いたずらで送った
もので……
気になさらないで
ください

さゆ……

ひやつ……

ちよつと……
あ、あなた……
もう……

ドクン……

美咲……？
な、なにを……？
美咲……？

あつ……

そ、それじゃ、
失礼します
佐々木さん……

ギ

ギ

あんっ……
ちよっ……
ちよっ……

佐々木さん
まだドアの
前に……
いらつしゃるのよ



声っ……
聞こえちやう……
あっ……

だめよ……
んっ……

加治木さんに
やらされたのは――

夫の前で、わざと
夫婦のように
振る舞うこと……

そして、夫を
他人のように
扱うこと――

夫を呼び出す
加治木さん……

そして、私も、
言われるままに――



どうせ、
興奮して
喜んでる



他人のように
振る舞え—
なんて……



この家では
美咲は俺の妻
として扱う
—
そういう契約だ



そ、それは
そうだけど……



実際—

その日の夜の
夫のセックスは
ひとときわ
激しかった

お互い口には
しなかったが
夫の心の何かに
火を付けたのは
明白だった……



夫は、あんな
激しい感情を
私に向け続けて
くれるのだろうか？

もし……
もし私が本当に
加治木さんの
奥さんになって
しまったら――



私の頭の中に
居座ったまま
消えなかった

その思いつきは
ひどく不吉で――



もうこんなことは
続けたくない

帰った後、美咲が
あの男に抱かれて
いるところを
想像すると……
何もかも壊したくなる



ある日、
加治木さんが
絞り出すように
言った……



美咲を……
俺だけのものに
したい……



俺のこの感情は
愛じゃないの
かもしれない

ただの独占欲なの
かもしれない……

それでも……



加治木さんは
もう続けたく
ないという――



続けて
ほしい……

1



あなたは……
どうなの……？

私がこれをつけて……
加治木さんに
取られてもいいの？



ねえ、
あなた……





美咲っ……
愛してるんだ
本当だ……!!



わ……
わかってる……
ばかね……



分かってる？
本当に？

もう終わりにして
私を独占したい
加治木さんは
私を愛してなくて

私を他人に抱かせ
続けたい夫は、
私を愛しているの……？

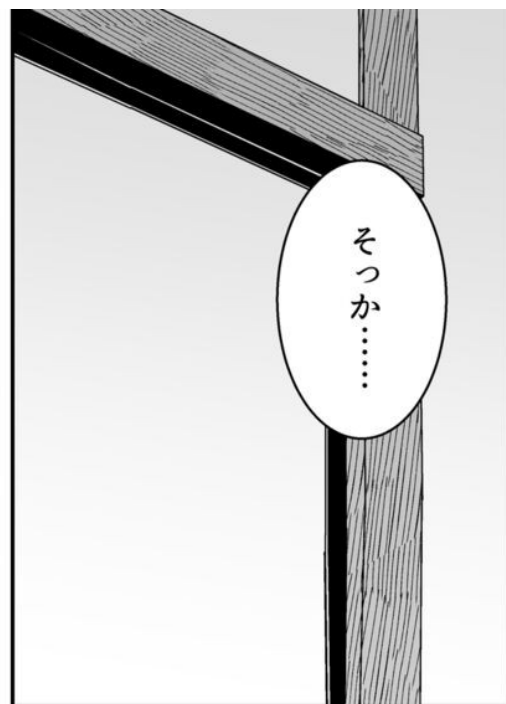
じゃあ——じゃあ、
私の「愛してる」って
気持ちはなんなの……？

ドッ…

ドッ…

ズッ…

ズッ…







あなたの……
女になるわ……

もう、避妊も
しないわ……
あなたの子を産む

全部、あなたの
ものにして……
私の、全部……

俺を、
愛している
からか？



あの人を……
愛しているから

ううん……

……
それでもいい
今は……



この人の
雌になる

私の身体は……
愛する夫ではなく
他人のものになる

これから
ずっと――



最後の食事を
作り……
指輪を外した



翌朝、
夫のいる
家に行き



私の大切なもの
すべてを、そこに
置いてきた



幸せな結婚生活も
大切な結婚指輪も
小さな家も、
愛する夫も……



私もあなたも
馬鹿よね……

二人で、満足すれば
良かったのに……



小さくて、静かで
幸せな家庭で……
それで良かったのに

全部、手放して
気持ちいいことを
選んでしまった……

ああ、でも――

これが、喪失感なんだ
これが背徳感なんだ

あなたは私が
抱かれる時、
こんな風に……

脳が灼けるような
衝動を感じてたんだ

すっ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

ちゅっ

ちゅっ

ちゅっ

私、もう
おかしくなりそう……
ううん、もう既に……

もう……
私たちの人生は
手遅れだね……





あっけないほど
簡単に――
私は加治木さんの
赤ちゃんを妊娠した

加治木さんとの
セックスでの
避妊をやめたら
すぐに……

自分が子供を
産めることに
少しほっとした



こうして、元夫の家に
来ることも、
ほとんどなくなつた

今は、加治木さんと
暮らしている――

加治木さん
今の夫は、
嫉妬深い
から……

今日だけは、
どうしても
必要なものが
あった



それで……
書けた？

離婚届



うん
判子も
大丈夫だね

ん……
ありがと



彼の寂しそうな
顔に、胸の奥を
締め付けられる

でも――

元夫から
離婚届を
受け取り帰る――

この家で
彼と会うことは
もうないだろう……



だからこそ
私は……

それでも
私は――



ええ
ちゃんと……



離婚届は
受け取ったか



ただいま……



これで、私は
本当に——
この人の雌に
なった……

スル



離れば、
離れるほど——

ト……



この人の
雌になっても……
ううん——



(は)

この人の雌に
なるからこそ……
あなたとの愛が
強まると感じる

(は)



ちゅっ

寝取らせてって
そういうこと
でしょう……？

ちゅっ

ちゅっ



遠ざかれば
遠ざかるほど

元夫との絆を
強く感じる……



やっと、あなたの
愛に応えることが
できた――

私、それが
嬉しいの……



私、ちゃんと
加治木さんの
雌になるからね

一生、この人に
飼われて生きるから

ずっと私を
想って――
シゴいてね
あなた……

ねえ……
あなた……
今、幸せだよ

あなたも
幸せだよね？

これが、あなたの
望んだことだよね？

私は、そう
確信してる……

だって
私は……

ズッ

あ

あ

ズッ

ハッハッ

ハッハッ

シッ
シッ
シッ



あなたを
愛しているから

他人の雌に
なったのだから――

妻 が、他人の 雌 になるまで。 裏

愛してる、
あなた――

発行日：2024年8月12日
発行者：haruhisky
発行元：ろいやるびっち
特別支援者：thar 様
印刷所：日光企画 様
連絡先：haruhisky1@gmail.com



